

# 東女医大ミス

## 装置担当医も隠へい

### 技士に記録改ざん指示

東京女子医大病院の心臓手術ミスで、人工心肺装置の作動記録の偽造は、同装置を担当した同病院医師、佐藤一樹容疑者(38)業務上過失致死容疑で逮捕。技士に働きかけて行われていたことが、警視庁捜査一課と牛込署の調べで分かった。手術の執刀医、瀬尾和宏容疑者(49)証拠隠滅容疑で逮捕の指示によると、警視庁は同容疑者がともに医療ミスを隠そうとしたとみて追及している。瀬尾容疑者の別の隠へい指示を女性看護師が断っていたことも新たに判明した。

今回の事件では、①看  
 察記録の改ざん②人工心  
 肺装置の記録偽造③の  
 二つの証拠隠滅が行われ  
 たとして、瀬尾容疑者が  
 逮捕された。  
 人工心肺装置の記録偽

造に佐藤容疑者も関与し  
 ていたことは、臨床工学  
 技士の男性(31)の供述な  
 どで分かった。隠へでは、  
 佐藤容疑者は、昨年3月  
 5日に平柳明香さん(当  
 時12歳)が死した直後

に、瀬尾容疑者の指示を受け、この技士に同装置が正常に動いたように見せかける虚偽の作動記録を作らせたとされる。証拠隠滅罪は、他人の罪を隠滅した時に成立するため、佐藤容疑者のこうした行為については、適用されない。この技士は、佐藤容疑者のミスで人工心肺装置がトラブルを起こした際に手術室に呼ばれ、対処方法を知らなかった手術スタッフが代わって装置を正常な状態に戻していた。

瀬尾容疑者が指示認める供述  
 証拠隠滅容疑  
 瀬尾容疑者は、捜査一課などの調べに「(改ざんを)指示はした」と容疑を一部認める供述を始めた。一方で、「自分は(改ざんを)やっていない」と話しており、同課は自らも看護記録を書き換えたとされる容疑について追及している。瀬尾容疑者は28日に逮捕された際には、「今は話せません」と供述していたとされる。

女子医大小児心臓手術事故  
 佐藤医師も隠蔽

2002年6月29日 毎日新聞夕刊

瀬尾容疑者別の看護師、涙で拒絶  
 一方、明香さんの看護一りに女性看護師長(54)に記録の改ざんでは、腫孔の直径がすべて7ミリから4ミリに書き換えられた。瀬尾容疑者は当初、女性看護師に指示していたが、この看護師が涙を流して拒否したため、代わ

る。  
 看護師長は一部の改ざんに応じたものの途中で拒否したといい、残りの部分は瀬尾容疑者自身が改ざんしたとみられる。